



先生の密かな楽しみ

KOSMOS



費丹旭作「蓮の花を持つ仕女の図」



改琦作「木蔭の美人の図」

著作権を知ろう —第1回—

<http://www.toyo.ac.jp/libra/>

NO.132

図書館における複製

— 利用者の求めによる複製 —

著作権法31条は、図書館が著作者の許諾を得なくても自由に著作物を一定の範囲で複製することを認めています。また、同法102条1項は、実演、レコード、放送及び有線放送についても同様に複製することを認めています。図書館における複製が認められる場合として、三つの場合が規定されているが、ここでは、利用者の求めに応じて複製する場合の要件について述べます。

1. 複製することのできる図書館は、著作権法施行令1条の3第1項で定められている国立国会図書館、公共図書館、大学図書館等であって、司書又は司書相当職員が置かれているものに限られます。

2. 複製をなす主体は図書館であるので、コピー式複写機を設置して利用者に自由に複写させるのは問題です。利用者の複写箇所をチェックできるようなシステム等になっていることが必要です。図書館が複製しなければならないので、外部の業者が複写機を設置してコピー・サービスをすることはできません。図書館における複製は、営利を目的としない事業として行われる必要があるが、コピー用紙代等の実費を徴収することは差し支えありません。

3. 複製できる図書資料には、書籍、雑誌、写真、レコード、CD-ROM、フィルム等が含まれ、複製の手段は、複写、写真撮影、マイクロ・フィルム、録音、録画等が認められています。複製の対象は、図書館に所蔵する公表された著作物であるから、他の図書館に所蔵されているもの、又は未公開のものは含まれません。

4. 複製できるのは、公表された著作物を一人につき一部であるから、全部を複製することはできません。一部とは、著作物の半分以下であると解されています。ただし、発行後相当期間の経過した雑誌等の定期刊行物に掲載されている個々の論文等については、その全部を複製することができます（著31条1項カッコ書）。しかし、定期刊行物全体を複製することはできません。雑誌等の場合には、次号が発行されるまでの間は複製できないと解されます（次号が発行されても、前号の在庫品が入手可能な場合は複製できないと解されます）。

5. 複製物は、調査研究を目的とするものであることが必要であり、娯楽を目的とするものは除かれます。したがって、絵画、写真等を利用者の鑑賞用に複製することは認められません。



PROFILE

盛岡 一夫（もりおかずお）
法学部教授

昭和14年鹿児島生まれ。東洋大学大学院博士課程を経て、昭和58年4月より現職。専門は知的財産法・商法。

改琦と費丹旭

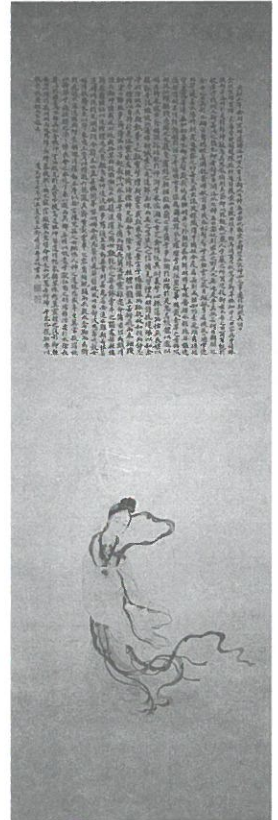
笠原 俊宏

20代及び30代におけるヨーロッパ志向から一転、40代になって東アジアへ回帰して来たように思われる。住む家の好みも純和風か中国伝統の四合院造りへと変わった。元来好きだった絵画鑑賞もこの頃は専ら日本画か中国画である。従って、海外旅行も中国へ足を向けることが多く、中国様式のホテルに泊まって、博物館・美術館での絵画鑑賞三昧である。勿論、骨董屋を覗くことも大好きである。費丹旭との出会いも、ある年の冬の日、北京の琉璃廠を散策していたときのことであった。費丹旭とは中国絵画史上有名な清朝後期の仕女画家である。その運筆は誠に流麗かつ軽快であり、特に人物画において本領を発揮した（王伯敏『中国絵画史事典』参照）。「蓮の花を持つ仕女の図」はその時入手した一幅である。陰鬱な表情、撫で肩から受けた奇異な雰囲気知らぬ間に虜になってしまった。費丹旭に優るとも劣らない凄い仕女画家がほぼ同時代にいたことを知ったのは、間もなくのことであった。その名を改琦という。その墨の運用は簡潔で色調は清雅である（王・前掲参照）。従来、卑俗なもののみられていた美人画が清朝後期に隆盛を誇ったのも、改・費を始めとする画家の多くが『紅樓夢』等の文学的素養を備えており、それにより、病態美を理想とした画風に格調が与えられたからであると考えられる。

白山図書館及び朝霞分館に所蔵されている何冊かの『海外所在中国絵画目録』を眺めるたびに、中国がいかに芸術大国であったかを痛感するとともに、明治初期のわが国における状況にも想いをしつつ、一旦、海外の美術館に流出した作品が元に戻ることはないという一抹の寂しさを繰り返して感ぜずにはいられない。実際、私も極く些やかにその片棒を担いでいるのではあるが、相当数の中国絵画が欧米の（そしてわが国の）蒐集家によって買い漁られたとみられる。それでも、きっと、そんなのはほんの一部に過ぎないというほどに中国文化の奥は深いであろう。尚、複製や偽物も極めて多い（王耀庭『中



改琦作「仕女の図」



費丹旭作「仙女の図」

国絵画のみかた』参照）。仕女画のルーツというべき明朝末期の仇英の絵は現在でも入手可能であるが、その殆どは清朝時代の模写であり、また、改・費の贋作は恐ろしいほど蔓延している。実は、最近、例の「蓮の女」は偽物ではないかと疑いを抱いている。しかし、好きな作品であることに違いはない。結局、落款の如何に拘わらず、気に入ったものを買求めるべきであるということであろう。ちなみに、観峰館（滋賀県神崎郡五個荘町）が所蔵する中国画のコレクションは見事である。ぜひ一見することを勧めたい。



PROFILE

笠原 俊宏（かさはらとしひろ）
法学部教授

昭和23年大阪生まれ。中央大学大学院博士課程を経て、平成10年4月より現職。平成12年4月より図書館長。専門は国際私法。

絵を描く楽しさについて

松野 安男

私は絵を描くのが好きで、若い頃「絵描きになりたい」と言ったら、画家だった父に「食べられないから、止みなさい」と言われた。それで、絵描きにはならなかったが、絵を見たり、描いたりするのは今でも相変わらず好きだ。旅行に行くときなど、美術館にはできるだけ寄るようにしているし、鞆の中には必ずスケッチブックと絵の具を入れておく。どんな絵が好きかと問われれば、具象画も抽象画も、マチスもピカソも、蕪村も大雅も好き、その他いろいろ好きな絵描きがいるけれど、それらの人の絵でも、あまり好きでないものもあるさ、というのが一番正直な答えだと思う。

好きな絵はそばに置いておいて、ときどき眺めたいと思う。本物でなくても、画集でいい。本物を見たことがあれば、記憶を思い出しながら、見たことがなければ、想像しながら、充分楽しむことができるから。本学の図書館にも立派な画集がたくさんある。それらを長々と借出して返却の催促をうけたことが何度かある。定年後も借出すことができるだろうか。

好きな絵を良いなあと思う気持ちがだんだん強くなって、それを模写したくなったこともある。ずっと以前のことが、ヴァン・ダイクの若い頃の自画像を画集から模写してみた。完成はしなかったが、そのとき人間の肌の色の出し方とか髪の毛の描き方などいくらか会得できたように思う。また、蕪村の「夜色楼台雪万家」図を油絵で模写したことがある。なんと無茶など思われるかもしれないが、墨では、間違った線は消せないし、とにかく

難し過ぎるのだ。形だけは、画集の上に透明な方眼紙を載せて、できるだけ正確にとった。色は、墨絵の感じを出すために、本物から離れて自由に工夫した。出来映えはともかく、過程ではいろいろ発見があって面白かった。中でも驚いたのは、薄い線で方眼を一つづつ埋めて行くという最初の段階で、もう雪の夜の雰囲気画面一杯に漂い始めたことだ。蕪村のデッサン力は凄い。そして、模写こそ絵画のもっとも念入りな鑑賞法だと思った。

また、材料と戯れるのも楽しい。鉛筆もコンテも水彩絵具もグワッシュも油絵具もアクリルもクレヨンもパステルも使ってみれば、それぞれ特徴があって面白い。何はともあれ使ってみるに如くはない。最初は予想もしない結果が出てびっくりすることもあるが、目の前にはっきり結果が現れるから、直ぐに慣れる。いや、慣れるまでが面白いのだ。最近、ちょっと高いオイルパステルを買ってきた。帰ると直ぐ、スケッチブックに全部の色を塗ってみた。それは何物も写してなくても、もうすでに画面なのである。



「テニスをする人々」



「真昼のバーボンストリート」

いや、写すことにももちろん楽しさはある。実物通りである必要は全くない。描きたい物を創り出せばいいのであって、風景やモデルは参考にすぎない。それでも、描きたい物がなかなか表わせないことは多い。意外なことに、実物に拘り過ぎているときに、そうなりがちなのだ。例えば、春雨に煙る萩市の風景を描いたとき、白い雲を映した水溜まりがどうしても灰溜りになって困った。窮余の一策として、そこに有りもしない枯れ草の茎を数本立てて、それらを水溜りに映してみた。すると直ぐに、あの日の濡れた靴下の感触が甦ってきたのである。

そろそろ紙数が尽きたようだ。絵については喋りたいことはまだまだたくさんある。例えば、外国で買った絵具のセットのこと、絵と額縁の意外な取り合わせについて、芳賀徹の言う「籠り居の詩人」蕪村の句と絵におけるデフォルマシオンのこと、日本の子どもの絵と欧米の子ども

の絵の色彩の比較について、等等。といっても、私は自分の考えに自信があるわけではない。私が喋りたいというのは、私が人々の意見を聞きたいということなのだ。けれども、自分が描いた絵については、謙遜はつまらないと思う。「ね、ね、ちょっとここを見て、いいでしょう」と、うまくいったところをお互いに見せ合って、率直に批評し合える友達がいたらどんなに素晴らしいことだろう。

2000年12月11日

PROFILE



松野 安男 (まつのやすお)
文学部教授

昭和5年東京生まれ。東京大学人文科学研究科博士課程を経て、昭和43年10月より現職。昭和63年4月から平成2年3月まで朝霞分館長。専門は教育学・教育哲学。本年3月をもって教壇を去られます。父、松野一夫氏(故人)は、『新青年』等、幅広く挿絵や表紙絵を手がけた画家。

研究と趣味・道楽の世界

—図書館は趣味の宝庫—

岡崎 渉

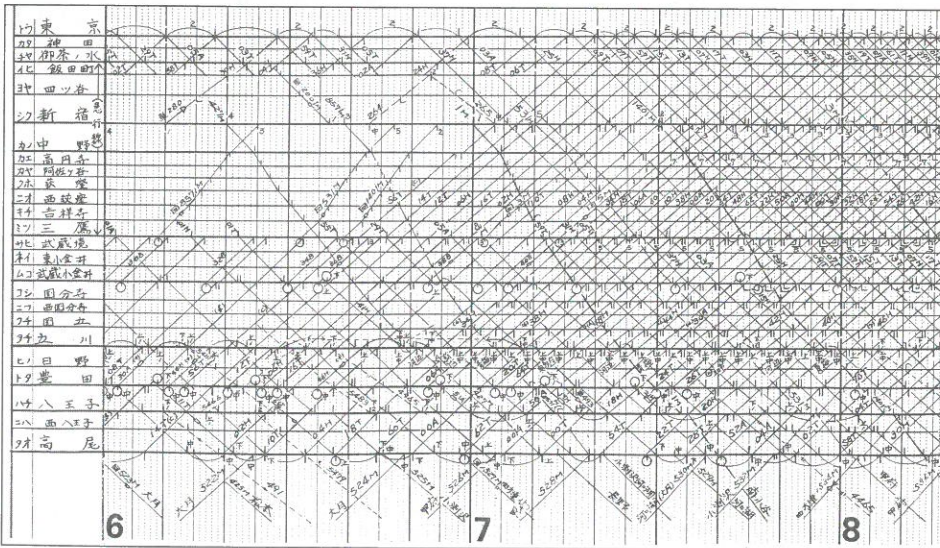
小生の趣味・道楽は、「鉄道で旅すること」、「写真を撮影すること」、「岩石・鉱物を採集すること」、「鉄道を社会科学的に考えること」であって、いずれもリンクしている。例えば、「旅に出たら写真を写す」、「旅に出たら地層を見学し造岩鉱物を考え、写真で記録する」、「鉄道的话题を探し、記事として趣味誌に投稿する」といった具合である。研究と趣味・道楽の共通点は何だろうか？どちらも「調べる」というプロセスが入っている。旅に出るには時刻表を調べる、岩石採集に出かけるには地質学的情報の収集を行う、風景写真を撮影するには地図を調べることが必要になる。

このうちで、鉄道に関する資料が最も多く手元にある。例えば、JTBの時刻表が約400冊、趣味誌の「鉄道ピクトリアル」が約600冊あって、

は、趣味・道楽の面でも工学部分館には大変お世話になったものである。

研究のための調査では、時々迷路にはまって行き詰まってしまうことがあるが、趣味・道楽に関しては、全くと言っていいほどこのようなことはない。趣味・道楽から入って、調査する技術を覚え本業に反映させるのも一つである。

図書館の使命は、学業の補助的なものだけではなく、人間形成に必要な趣味・道楽の分野をも網羅していくことが必要であるし、その図書館の存在価値が高まるものと考えている。残念ながら、板倉は整備の途中で今ひとつ物足りない気がするが、利用しやすい図書館として発展することを期待している。また、利用する側も不足する趣味・道楽の分野の書籍の購入要望を出し、さらに利用価値が高まるようにしたいものである。



JR中央線のダイヤグラム
縦軸が時間、横軸が駅を示し、駅間距離に対応している。斜線が1本ごとの列車を示し、横軸との交点が、その駅の列車の時刻となる。7時以降は斜線の本数が多くなっていることから、朝のラッシュに入り始めていることがわかる。

時間があると何となく眺めている。気分転換にもなっている。これらは座右の書とも言うべきものであって、その分野の歴史、時代の流れが分かって楽しいものである。そして、これらでは不足する場合には、図書館が活躍するのである。東洋大学には、板倉の他、それぞれのキャンパスに図書館があって、特殊性はあるものの調査する資料にはことかかない。学部生、院生時代に



PROFILE

岡崎 渉 (おかざきわたる)
生命科学部助教授

昭和24年仙台生まれ。東洋大学大学院工学研究科応用化学専攻博士課程修了。専門分野は微生物学。研究テーマは糖質加水分解酵素の検索と応用。「界面活性剤—防腐剤—微生物」の三角関係に関する研究。(株)アリミノ技術部を経て、1997年4月より現職。

東洋大学白山図書館を見学して

他大の図書館に行くのは初めてで、いつも自分の大学の図書館と地元の小さな図書館を利用してレポートの資料集めをしていたわたしは、東洋大学白山図書館を見学して「使われてこそこの図書館」という言葉を深く実感した。わたしはもともと図書館が好きで週に1回は利用している。高校生ときには「大学にゆくことになったらビルのような図書館で素敵な時間を過ごそう」と考えていたものだ。しかし、実際にわたしの大学の図書館はOPACで調べても“閉架”と表示されるばかりで蔵書数は多いにもかかわらず、利用できるのはほんの一部である。それに比べて東洋大学白山図書館の素晴らしさ。わたしは驚いてばかりいた。図書館というはじめたイメージを持たれそうだが、それを打ち壊すような光を取り入れたつくり。広い空間と適度に配置された緑によってこまごました活字を読んでいる学生も実にさわやかな気持ちになれるであろう。

また外見だけでなく、蔵書とそれにあった図書館サービス。普段から図書館を利用しない学

生にも待ち合わせなどで気軽に入れるように、入ってすぐに新聞の閲覧や簡単に読める雑誌や本を配架している。階段を下りると多くの雑誌が並ぶ、その中には外国のものもあり、たとえ文字が読めなくてもそれぞれの国の特性が出ていて興味深い。文庫も多い、わたしは電車の中で読めるよう文庫派である。パソコン設置数も多く、CD-ROMも気軽に利用できるという。さらに下の階にはずらりと並ぶ本棚、見上げるほど高い。そして電動書庫、恥ずかしながらわたしはそれを初めて見たのだ。CD・LD利用施設も機械化され、充実している。所々にある自習机にも惹かれる。

大学によってこんなにも図書館が違うとは。多くの情報が集まるこの空間にわたしが本学生であったら毎日居座ってしまうに違いない。幸いにも「山手線コンソーシアム」という企画によってわたしはこの図書館を利用できるようになった。これから頻繁に利用したいと思う。

法政大学 人間環境学部 人間環境学科 K.Y.

“隣の芝生は青い”という諺がありますが、寄稿して下さったK.Y.さんも他大学の図書館の方が良く見えたのでしょうか。誉めていただいてありがとうございます。でも、法政大学図書館は蔵書量・質ともにとっても素晴らしい図書館です。これからは多に利用をしてみてください。また、図書館員にもいろいろ相談してください。利用者の皆さんと会話ができるのを楽しみにしていることと思います。

編集部記

「山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム」からのお知らせ

参加大学の内、明治大学は御茶ノ水の「中央本館」のほか、「和泉」と「生田」のキャンパス図書館、また明治学院大学の「横浜校舎」もコンソーシアム方式の自由入館対象となりました。

学習院大学の「法経学部図書館」はコンソーシアムの自由入館ではありませんので、必ず当館のカウンターで紹介状を発行してもらうか、学習院図書館への取り寄せを依頼してから閲覧をしてください。

卒業後も図書館を利用してください(校友登録) 3月の卒業式が終わってから、図書館カウンターへ(4キャンパスどこでも可)お越しください。「卒業証明書」または「卒業証書」(どちらもコピー可)を提示のうえ、新卒者の場合は申し込み用紙に記入するだけで、その日の内に「図書館利用カード」をお渡しいたします。3冊4週間の貸出等が受けられますし、4館に自由に入館が出来て便利です。有効期間は2年間ですが、カードを持参すればその後も更新しますのでなくさないようにご利用ください。

お知らせ

図書館ニュース「COSMOS」はホームページでご覧いただけます。

<http://www.toyo.ac.jp/libra/>

白山

●日曜開館のお知らせ

日曜開館をいたします。大いに利用してください。

開館日	開館時間
1月14日・21日	11:00～19:00

(メディアスクエアは閉室)

●春休み長期貸出のお知らせ

期間：1月22日(月)～3月29日(木)

貸出冊数：学部生(含、短大・通信生)は、10冊・院生は15冊

視聴覚資料は5点・雑誌は通常通り(1週間以内)

返却日：4月12日(木)

ただし、卒業(修了)対象者の返却期限は、3月21日(水)となります。卒業式以後は校友登録等の手続きを済ませて、ご利用ください。(P.7を参照)

●閉館のお知らせ

2月3日(土)～2月28日(水)まで閉館いたします。

入学試験、板倉図書館への資料搬出作業、蔵書点検作業のため。長期の閉館でご迷惑をおかけいたします。

工学部

●開館延長のお知らせ

下記の期間、開館延長いたします。どうぞご利用下さい。

1月9日(火)～2月7日(水)	
月～金曜日	9:00～19:00
土曜日	9:00～17:00

●日曜開館のお知らせ

開館日	開館時間
1月28日・2月4日	10:00～16:00

●春季休暇中の開館時間

2月8日(木)～4月5日(木)	
月～金曜日	9:00～17:00
土曜日	9:00～13:00

●春休み長期貸出

1月29日(月)から借りた図書は、返却期限日が、1～3年生は4月9日(月)、4年生は3月9日(金)となります。(雑誌・視聴覚は、通常貸出で1週間です。)

1～4年生 貸出冊数 8冊(含雑誌)になります。

※新年度は4月7日(土)より通常開館します。

※開館時間等の変更については、掲示を参照してください。

朝霞

●日曜開館のお知らせ

後期試験のため、日曜日を開館します。

開館日	開館時間
1月14日・21日	10:00～18:00

(個人視聴室は10:30～17:30)

●春季休暇中の開館時間

2月1日(木)～4月5日(木)	
月～金曜日	9:00～17:00
土曜日	9:00～13:00

(個人視聴室は9:30～閉館30分前まで)

●春季長期貸出のお知らせ

2001年1月22日(月)～4月2日(月)の期間に貸出した資料の返却日は、4月16日(月)です。(雑誌の貸出は、通常通り1週間です。ご注意ください。)

※貸出冊数が上記貸出期限にかぎり増えます。図書10冊・視聴覚資料5点

●4年生・短大2年生の返却期限は2001年3月21日(水)厳守です。

※貸出冊数は通常通り、図書5冊・視聴覚資料5点となります。

●閉館のお知らせ

下記期間は閉館となります。

2001年2月6日(火)～16日(金) / (入学試験のため閉館)

2001年2月23日(金)～27日(火) / (蔵書点検のため閉館)

●インターネットご利用の際の注意

インターネットのご利用は1人1回につき、30分程度とさせていただきます。皆さんが譲り合って有効活用できるように、ご協力お願いします。

板倉

●開館延長のお知らせ

秋期試験のため、下記の期間、開館延長いたします。どうぞご利用下さい。

1月22日(月)～2月6日(火)	
月～金曜日	9:00～19:00

●開館時間のお知らせ

2月7日(水)～3月31日(土)	
月～金曜日	9:00～17:00
土曜日	9:00～13:00

●春休み貸出

1月29日(月)から借りた図書は、返却期限日が、4月10日(火)となります。ただし、4年生は3月9日(金)です。(雑誌は、通常貸出で1週間です。)

冊数 5冊まで

※開館時間等の変更については、掲示を参照してください。